

## 第6学年 教科「おおたの未来づくり」学習指導案

令和6年12月18日 5校時

13:30～14:15

対象 第6学年2組(31名)

指導者 島根 瑞紀

### 1 単元名

「わが街池上2 街の魅力発信プロジェクト」【A ものづくり】

(40時間扱い・未来づくり35時間＋総合的な学習5時間を含む)

### 2 単元の目標

池上小学校付近にある商店街の人々と連携して地域(商店)の願いを知り、解決のためのアイデアをまとめて商品を開発したり表現したりする活動を通して、地域の一員としてよりよいものをつくり出すために試行錯誤しながら、協働的に問題解決に取り組むことができるようにする。

### 3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
コンセプト	①商店の方の立場に立ったコンセプト設定の意味を理解し、企画の作成に必要な内容・方法に関する知識・技能を身に付けている。	①商店の方の話をもとに、情報を整理・分析し、ものづくりのためのコンセプトを設定している。	①商店の方との対話、調査等を通してコンセプト設定や企画の作成に必要な情報をすすんで得ようしたり、アイデアを出し合ったりしている。
デザイン・クリエイション	②商店の方に受け入れられる商品開発をするために、必要な内容・方法に関する知識・技能を身に付けている。 ③開発した商品について分かりやすく伝えるために必要な内容・方法に関する知識・技能を身に付けている。	②コンセプトを踏まえて、効果や実現性、費用対効果等の視点から検討し、取り組みの内容や方法を試行錯誤して商品開発やそれに関わる内容を考えている。 ③商店の方のフィードバックを生かして開発した商品の内容を改善するために、工夫して提案したり、実際に取り組んだりしている。	②商店の方のフィードバックを受け止めて、開発する商品の改善に協働的に取り組もうとしている。 ③商品の提案や提案内容の実現に向けた準備に自分と他者のよさを生かして役割を分担するなど、協働的に取り組もうとしている。 ④商店の方のフィードバックを受け止めて、自らの取り組みを振り返り、その価値や改善点を見出そうとしている。
ICTの活用	④ICTを活用した情報収集や、スライド作成に関する基本的な知識・技能を身に付けている。	④効率性やわかりやすさ等の視点をもって効果的にICTを活用している。	⑤モラルや他者意識をもってICTを活用しようとしている。 ⑥ICTを他者との協働や振り返り、企画や取組の改善のために活用しようとしている。

### 4 単元について

#### (1)単元設定の理由

本校の学区域内にはいくつかの商店街があり、児童の日々の生活の中で欠かすことのできない存在となっている。それぞれ歴史が深く、池上小学校の児童を見守り、2年生の町探検や年中行事等、様々な場面でも深く関わっている。

本単元では、地域に様々な商店会をもつ地域の特徴を生かし、身近にある商店の現状や問題等を児童自らが、地域の一員としてできることを考えて実践する問題解決学習を行う。「商店が求めていること」「商店の方々にとって必要なこと」を把握して相手意識をもって提案を考え、繰り返し商店とのやり取りを行いながら創造・発信していくこ

とを通して、児童一人一人の問題解決能力を高めていきたい。そして、地域の商店と関わり、一緒に願いや問題を解決していく経験を通して、地域への理解や愛着を深めていきたい。

## (2) 授業パートナーの連携

「株式会社ワークストア・トウキョウドウ」のイベント事業部の方がやっているホットドッグのキッチンカーと連携できることとなり、今回は、イベント事業部の方から「ホットドッグのソース開発に協力してほしい」という依頼をいただくことができた。児童たちが「ホットドッグに合ったソース作り」という商品開発に参加することで、下記のような資質・能力の育成に期待できる。

企業名	依頼内容	資質・能力の育成に期待できること
株式会社 ワークストア・トウキョ ウドウ イベント事業部 烏川隆清さん	現状や願いについての講話 取材許可 試作品や提案へのフィードバック 開発した商品の販売	・商店の方の話を聞くことで、より実感をもって課題意識をもつ。 ・地域との交流を通して、地域への愛着を深める。 ・試作品やその提案へのフィードバックをいただき、修正を繰り返すことで、問題解決学習の質を高め、問題解決能力を高める。

## (3) 学習過程

「実社会で活躍する人との出会い」では、商店の方に来校いただき、商店の現状や児童への願いを中心にして商品開発の方法について講話を行っていただく。児童は「何のために聞くのか(目的)」ということを事前に話し合い、目的意識をもって講話を聞くように重点的に指導した。また、講話の中で、自分たちが作った商品にどのような価値があるのかということに気付き、相手意識をもった商品を開発して販売をしていただくという見通しをもたせ、協働的に学習に取り組む態度を養う。

「コンセプトの設定」では、「地域の方にとって食べていただく」「商店の方の役に立つ」ということを実現するために、相手意識と目的意識をもってコンセプトを設定する。商店にとってより効果的、現実的、持続可能な商品を考える。また、企画を提案し合い、お互いに評価・分析することを通して、情報を整理・分析し、効果的に人に伝えるための技術について指導する。

「デザイン」では、実際に商品を開発する活動を通して、商品のよさや魅力を効果的に伝える方法を考える。その際には、より効果的、現実的、持続可能な内容を試行錯誤して考えていくことを重点的に指導する。

「クリエイション」では、開発した商品に対してフィードバックを受ける活動を通して、取組を振り返り、価値や改善点を見出し、より良い商品開発等について考えることを重点的に指導する。

	活動内容	児童の学習内容(めあて)
実社会で活躍する人との出会い	○商店の方に来校いただき、商店の現状や児童への願いを中心にして商品開発の方法について講話を行っていただく。	・「何のために聞くのか(目的)」ということを事前に話し合い、目的意識をもって講話を聞く。 ・講話の中で、自分たちが作る商品にどのような価値が必要なのかということに気付き、相手意識をもった商品を開発して販売をしていただくという見通しをもつ。
コンセプトの設定	○「地域の方にとって食べていただく」「商店の方の役に立つ」ということを実現するために、コンセプトを設定する。	・商店にとってより効果的、現実的、持続可能な商品となるよう相手意識と目的意識をもって考える。 ・企画を提案することを通して、情報を整理・分析し、効果的に人に伝えるための技術を身に付ける。

デザイン クリエイション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実際に商品(ソース)を開発する。</li> <li>○商品のよさや魅力を効果的に伝える方法を考える。</li> <li>○開発した商品を提案し、フィードバックを受ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より効果的、現実的、持続可能な商品となるよう試行錯誤して考えていく。</li> <li>・取り組みを振り返り、価値や改善点を見出し、よりよい商品開発等について考える</li> </ul>
レビューまたはリフレクション	○最終フィードバックをもらい、授業のまとめを行う。	・今回の全学習過程を通して、自分たちがしてきたことの価値を見出す。

#### (4)本単元で扱う教科等の内容及び本単元に充てる授業時数

教科等名	本単元で扱う内容	授業時数
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じて、日常生活の中から課題を決め、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討すること。</li> <li>・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。</li> <li>・学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。</li> <li>・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。</li> <li>・インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。</li> </ul>	9
社会	・政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。	1
図工	・造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えること。	3
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養を考えた食事 イ 1食分の献立について栄養のバランスを考え、工夫すること。</li> <li>・家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫すること。</li> </ul>	3
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な語句や基本的な表現を用いて学校生活や地域に関することなど身近で簡単な事柄について自分の考えや気持ちなどを話す。</li> <li>・相手に伝えるなどの目的を持って身近で簡単な事柄について、大文字や小文字に気をつけて書き写すこと。</li> </ul>	4
総合	・地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する。	15

#### 5 児童の実態

学級内では、自然な拍手が起こる場面や相手を理解し合う場面が多く見られる。グループ活動でも、友達の意見をよく聞き、受け入れてから発言する児童も多い。一方で、話し合いの時に人任せになり発言が少ない児童も数人いる。その課題解決に向けて今回は、本時までの時間、一人ずつの役割を自分たちで考えながら毎時間取り組んできた。

総合的な学習の時間では、昨年度から自分たちの暮らす池上の街について調べ、学びを重ねている。今年度授業パートナーである「(株)ワークストア・トウキョウドウ」宣伝事業部の鳥川さんが経営する『セントラルエイトガレージ』というキッチンカーの存在や、毎週火曜日の営業時間などを知った児童たちは、友達を誘い合ったり家族に声を掛けたりして早朝に食べに行くなど、興味をもつ様子が見られた。さらに、活動グループの名称を「班」ではなく

「会社」とすることで、ソースづくりや授業パートナーに向けたプレゼンテーションなどに対する意識を高めたり、職業調べともつなげたりしながら授業を進めてきた。

第6学年全体としては、各教科でのスライド作成や動画作成の経験が豊富なため、作成技能が高い児童が多い。また、授業の中では自分で計画を立てて学習課題を解決することができる児童も多い。一方で、相手意識を強くもった授業経験が少ないことや、相手と円滑に対話するなどのコミュニケーション能力は全体的に高くないことが日常生活の中から見取れる。今回は相手意識を単元の前半から意識させ続けているため、本時でも最初に確実に押さえていく。

## 6 指導の手だて

### (1) 授業パートナーとの打ち合わせ

(株)ワークストア・トウキョウドウの烏川さんとは7月に事前の打ち合わせを行い、ソース作りの概要についてお話しいただいた。その後、『セントラルエイトガレージ』で「池上小ソース」を使用したホットドッグを1月に販売するというゴールまでの流れを確認した。

- ・9月に児童にホットドッグに合うソースを作ってほしいという烏川さんの思いを伝える。
- ・10月に各グループで作ったソースを試食していただき、フィードバックを受ける。
- ・12月に改善したソースを試食していただき、各クラスの代表ソースを決定していただく。
- ・1月の学校公開で3種類のソースを使用したホットドッグを販売していただく。

フィードバックの際に「(池上小の)オリジナリティを大事にしてほしい」という言葉を伝えていただくことを事前に確認していたため、こちらからの指導はしないようにするなど、ゴールに向けてどのように指導していくかを相談することができた。打ち合わせをすることで、児童へよりよい助言・指導をすることができる。

### (2) ICTの活用

ソースの種類や、既存のソースの作り方、さらに市場調査についてなどソース作成の根拠となる内容等について、タブレットで検索サイトを使用して調べ学習を行った。各グループで考えたソースについては、オクリンクプラスを使用してプレゼンテーションを行った。

### (3) チャートの活用

ソースの特徴を表すためにレーダーチャートを使用した。オリジナリティや味など、複数あるデータ項目を比較し、どんな特徴があるソースなのかを客観的に表現することで、子どもたち同士もソースを評価しやすくなると考えた。また、児童は学習でチャートを使用したことがあまりなかったので、数値の表現方法として表やグラフ以外の選択肢を増やすことができた。

### (4) 複数の小ゴールの設定

児童たちが継続して主体的に活動することができるよう、小ゴールを細かく設定した学習計画を組んだ。

- ①クラス試食会
- ②クラス代表ソース決定
- ③給食時間に放送で宣伝
- ④池上小代表ソース決定
- ⑤宣伝・販売

## 7 指導計画(35時間+総合5時間)

		時	○学習活動 ★手立て	◆評価規準
総合的な学習の時間	4月5日	12 34 5	○池上の街の魅力を考える。 ・5年生のときに出合った街の魅力をもとに考え、友達同士で情報交換をする。 ★広い視野で考えを出した上で、地域のお店と関わっていくことを確認する。 ○お店の魅力について考える。 ・児童が知っているお店を確認し、これから関わっていくお店を絞る。 ★2年生のときの街探検でお世話になったお店等を中心に、お店の取材が可能か等の視点を児童にもたせた上で絞っていく。	◆【主】① (ワークシート)
コンセプト	6月	6 7 8	○お店の魅力を調べる。(お店を知る) ・調べるお店について知っていることを出し合う。 ・インターネットでお店について調べたり、知ったことをまとめたりする。 ・お店の人に質問したいことを考える。 ★一問一答になるような質問だけではなく、お店の人と会話や質問をする中で魅力や願いを見つけられるように助言する。	◆【思】① (ワークシート)

			<p>○お店のよさ、魅力や願いについて知る。 ・実際にお店に行き、質問をしたりお店の願いなどを聞いたりする。 ★一緒に授業をしていただけるお店を決定し、打ち合わせをする。</p>	
		9	<p>○お店の方に来ていただき、願いをお聞きする。 ★お店の商品であるソース開発に参加できることを児童に伝える前に、お店のことについては知らせておく。</p>	◆【知】① (ワークシート)
デザイン	7月	10 11	<p>○自分たちにできることを考え、プロジェクト企画書を作成する。 ★企画の具体的な内容、スケジュールについてまとめられるようにする。(オクリンクプラス)</p>	◆【思】② (ワークシート)
	9月	12 13 14 15	<p>○お店の願いを叶えるための商品開発について考える。 ★お店の方から教えてもらったアドバイスをもとに、ソースの開発を進められるよう声掛けする。 ★試行錯誤した様子や記録をオクリンクプラスにまとめておき、お店の方に見てもらうようにする。</p>	<p>◆【主】② (発言・ワークシート) ◆【知】② (オクリンクプラス) ◆【思】④ (オクリンクプラス)</p>
クリエイション		16 17 18	<p>○ソースを作る。 ○開発したソースを伝え試食する。(1回目) ・全グループのソースを試食していただき、それぞれのグループからアドバイスをもらう。 ★グループごとにプレゼンテーションできるように準備しておく。</p>	◆【知】③ (発言・オクリンクプラス)
	10月	19 20 21	<p>○お店からのフィードバックを受けて再検討する。 ★より願いにそった形にするためのフィードバックを行ってもらおう。 ・フィードバックをもとに企画書を修正する。 ★「お店の人の願いを実現するためにはどうすればよいか」「より動画を効果的に見せるためにはどうすればよい」という二点を確認し、フィードバックを生かして作られているかという視点で考えさせる。</p>	<p>◆【思】③ (オクリンクプラス) ◆【主】③ (オクリンクプラス・ワークシート)</p>
	11月	22 23 24	<p>○フィードバック(児童同士)を受けて修正する。 ・児童同士でソースを試食して、ソースの特徴をチャート化する。 ・プレゼンテーション資料の再検討を行う。 ★動画の修正を行うとともに、当初の目的である、お店の願いを実現するソースに仕上がっているか確認を行う。</p>	<p>◆【主】④ (オクリンクプラス) ◆【思】③ (オクリンクプラス)</p>
		25	<p>○クラス内でソースをプレゼンテーションする。 ★プレゼンテーション資料についてもフィードバックを行い、お店の人に見せるまでに修正を行うよう声掛けをする。</p>	◆【知】④ (オクリンクプラス)
	12月	26 27	<p>○ソースを作製する。 ○プレゼンテーション資料を作成する。</p>	◆【主】⑤ (オクリンクプラス)
		28	<p>○お店の人にプレゼンテーションをする。(本時) ・児童が考えたソースについて、1班ずつ発表をする。 ・全グループの試食をしてもらう。 ・クラスの代表を決めてもらう。 ★発表を聞く児童も「商品について分かりやすい内容になっているか」という視点で見ると指導する。</p>	◆【知】③ (発言・オクリンクプラス)
		29 30	<p>○各クラスで決まったソースを宣伝するポスターや看板を作成する。</p>	◆【主】⑥ (発言・ワークシート)
			・各クラスのソースを使用したホットドッグを販売する際に掲示す	

	31	るポスターを作成することについて声掛けをし、グループごとに案を出す。 ★より効果的に見せるポスターや看板を作製するよう、アイデアを出し合い、よりよいものに仕上げる。 ★期限があることを確認し、その中でできることを考えていくよう指導する。	◆【知】③ (オクリンクプラス)
1 ・ 2 月	32 33 34	○地域に公開する。 ・1月土曜日の学校公開の午後を活用し、池上小で開発したソースを使用したホットドッグを販売していただく。 ・売上実績を主に、池上小学校のソースを決定してもらう。  ○QRコード(動画)付きポスターを作成する。 ・でき上がった動画やポスターをお店の方に見ていただき、フィードバックをもらう。 ★「池小ソース」やお店を宣伝するための動画やポスターを作成するために必要なことを考えさせる。 ・ポスターを地域に貼らせてもらう。	◆【思】④ (ワークシート) ◆【主】⑤ (ワークシート)
	35	○最終フィードバックをもらい、授業のまとめを行う。 ★自分たちがしてきたことの価値を見い出す。	◆【知】③ (オクリンクプラス) ◆【主】⑥ (ワークシート)

## 8 本時の指導(28/40時間)

### (1)目標

事前に作成したプレゼンテーション資料を基に、根拠に基づいて分かりやすく自分の意見を伝える。

### (2)展開

	○主な学習活動	◆評価規準【観点】(方法) ★手立て
導入 5 分	○前時までの学習を振り返る。 ○本時のめあてを確認する。	★烏川さんから事前に伝えられたポイント3点を確認する。①味・見た目・匂い(五感)②オリジナリティ ③宣伝→アピールポイント
	自分たちが作製したソースについて、 <u>分かりやすく</u> 伝えよう。	
	○本時の学習活動の流れを確認する。	★『分かりやすく』をおさえる。 ・ポスター ・看板 ・オリジナリティ ・見やすさ など  ★本時でクラス代表が決まることを再確認する。
展開     35 分	○各グループが作製したソースの特徴について、事前に用意した資料を使って発表する。 1班 新ソース開発会社 2班 デリシャスソースチャレンジ会社 3班 5student美味しソース会社 4班 さかたとは会社 5班 究極のソースM会社 6班 ドックラン会社  ○授業パートナー(烏川さん)からの講評を聞く。	◆開発した商品について分かりやすく伝えるために必要な内容・方法に関する知識・技能を身に付けている。【知】③(ワークシート・発表の様子)  ★受けたことをワークシートにメモさせる。
まとめ 5 分	○今日の活動を振り返り、学んだことをまとめる。 ・伝えたいことを明確にして発表することができたか。 ・分かりやすく伝えることができたか。  ○クラス代表のソースを決定。 烏川さんから決定したクラス代表のソースを伺う。	★初めての商店との関わりから自分たちが得たことを考えさせる。 ★選ばれなくてもここまでやってきたことで得られた価値があることを伝える。  ★烏川さんに発表していただく。  ★次回からはクラス代表のソースをより良くしたり

	○今後の活動内容を確認する。	宣伝したりしていくことを確認する。
--	----------------	-------------------